

東北大学で君が代を「斉唱」させることは

ダメ！ 言語道断！

病院支部 北村さん

憲法って、時の権力者が勝手気ままに利用できてるものなのか？政府が露骨に解釈捏造。「個人の権利と自由を確保するために国家権力を制限する」という近代憲法が、今まさに真逆である。そんな今とどう向き合ったらいいのか？

今回のテーマは「大学での日の丸・君が代の強制問題」。日の丸掲揚と君が代斉唱が小、中、高ときて、いよいよ大学の中に入ってきた。躊躇なく、なりふり構わず土足で入ってくる相手にどう立ち向かうか。講師（弁護士）の問題提起のあと、活発な意見交換。「大学に日の丸、国歌を強要することがなぜいけないことなのか自分の言葉で相手に話せること

4/25 コア主催 陽だまり登山
シュンランを求め五社山へ

病院支部 小笠原さん

が必要。」「大学が大学でなくなってしまう。学問の自由が破壊される。」「小中学校の行事で君が代斉唱に強い違和感を毎回感じる。」様々な意見が出されたが、改めて大学内での大きな世論を形成し、みんなで闘っていくしかないのでは。ないか。と感じた。



「何歳くらい？」「50歳じゃあないか」「うーむ、もう少し若いんではないか」・・見つけた「シュンラン」の見定めをしながら、「ひだまり登山」が続きました。濃い緑のきりっとした葉の中に、凛と1本淡い黄緑の花をつけて立っているもの、1本から6個もの花をつけてあちこち向いているもの、葉の中に花を隠してしまっ

メーデーで227筆の署名

久しぶりの快挙です。

署名集めが得意でない当組合ですが、今年のメーデーで、加入したばかりの農学部組合員が積極的に集め、古株も頑張りました。「未来をひらく教育保障制度をつくる請願署名」で、大学等の学費を下げることに、奨学金は返還不要の給付制度を基本とすること、などが請願項目です。

日本が2年前に「教育無償化を進める国になる」と国際公約したそうですが、早く具体的な計画をたてるべきです。

いるものとそれぞれの表情がいろんな思いを持っているように、我々をそっと迎えてくれました。今回は名取市の郊外、外山から五社山の縦走の遊歩道から、少しかすみをかぶった太平洋、仙台空港、飛行機の着陸の様子、眼下の団地などを楽しむことができました。産毛をまとったような薄黄緑の葉、稜線の両方から上がってくる涼しい風、小鳥のさえずり、枯れ葉を踏む音と匂い、時に水のせせらぎ、自然の中に身をゆだねて抱いてもらったような感覚を覚えました。



快晴の五社山山頂にて

ニリンソウ、それぞれ小さいけれども上を向いて咲いている花々・「あったあ」とコシアブラを見つける声、途端に目はコシアブラパターンへ。藪をかき分け、狩猟民族に早変わりしたKさん。下を見たり、上を見たりと大忙し。見るだけでなく、やはりお腹も満足したという本能意識がもくもくと湧き出ておりました。5時間の歩行後、Nさんが、そばの店の閉店間際に突っ込み走り、時間の延長を導き、その成果で皆がそばを味わうことができました。体の中心から幸せな時間でした。

病院長交渉から
看護師増員を
要求して

6月15日病院長交渉が行われた。看護師の年休消化について月2日とれるように看護師数を確保しているというものの、事実上、年休をほとんど与えられないと同じであることが判明した。実際、月平均1日未満の年休しか取得できていないことが明確になった。7対1看護のもとで年休消化を保障する看護師数を明らかにするためには産休・育休等の取得者を予測計算する必要があるが、病院経営者は「難しい」の一言で、算出式は提供されなかった。不誠実回答ばかりで年休を保障するための要員を確保する姿勢がないことが明らかであり引き続き資料請求、交渉を継続していくこととなった。